

阪神・淡路大震災25年記念事業 「六甲山の災害展」の開催について

神戸県民センター六甲治山事務所・農政環境部農林水産局治山課

1. はじめに

現在は、緑豊かな憩いの場である六甲山ですが、明治時代には「はげ山」だったことが知られおり、また、豪雨や地震による大規模な土砂災害が幾度も発生し、人命や財産に甚大な被害をもたらしてきた歴史があります。これに対し、現在の六甲山の姿とするため、植林により緑を復活させ、ダム等の防災施設を設置することで災害の発生を最小限に食い止める努力がされてきました。

これらの歴史に学び、県民一人一人の防災・減災活動に活かしていただけるよう、8月14日から25日までの間、H A T 神戸の「人と防災未来センター」にて「六甲山の災害展」を開催しました。



開催の様子



六甲山の模型とパネルの展示

2. 阪神・淡路大震災の記憶

今年度は、未曾有の大災害から25年目の節目となります。当時、多くの山崩れが発生し復旧工事を実施した箇所が、現在は木々が茂り緑に戻っている状況をパネルで紹介しました。

また、震災を契機に開発されたロープネット・ロックボルト併用工法について、工法の説明を行うとともに施工効果の実験を行いました。

3. 実験装置を使った体感

土石流実験装置等、多くの実験模型を使って、災害の要因や対策工事の効果をわかりやすく体感してもらいました。また、今回は山地災害情報協力員の方にも協力いただき、六甲山の石や砂を使って「ろ過装置」を皆さんに作ってもらった体験を行いました。



ペットボトルろ過装置を作成

土石流実験など様々な模型実験



近隣の危険箇所を確認

地すべり要因と対策工の実験

4. 防災情報を確認

パソコンによる「CGハザードマップ」や神戸市の防災ガイド配布マップを用いて、自宅周辺の危険箇所や避難場所を調べ、今後の避難判断に役立つ情報を確認してもらいました。また昭和13年

の災害記録となる「阪神大水害デジタルアーカイブ」により、貴重な記録映像や体験談等を紹介しました。

5. そのほかのイベントへ参加

今回は、人と防災未来センター開催の「H A T 減災サマーフェスティバル」へも初めて参加し、



保水力実験で体験



花崗岩を触ってみる

屋外のテントブースで、森林土壌の保水力の違いを見もらう実験や、もろくなった六甲山の基岩である花崗岩に触れてもらいました。多くの来場者から、森林の持つ効果がわかったとの声をたくさんいただきました。

6. おわりに

今年度は、開催日数が短かったことや台風の影響等から、来場者数は前年度を下回りましたが、3200人を超える方に来場いただきました。また、アンケート結果では、前回を上回る約70%の方から「防災意識が向上した」と回答があり、今後「防災グッズの準備」や「避難経路・避難場所や危険な箇所を事前に確認する」等の感想が寄せられました。

全国では、毎年のように、これまで経験したことのない規模の災害が発生しており、日頃から備えておくことが大変重要となっています。県民の皆さんに常日頃から防災意識を高く持っていただき、いざというときの適切な行動に役立てられるように、今後も防災・減災の普及啓発に取り組んでいきます。

